

【実践報告】

教育実習Ⅱ（幼）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 准教授 田中 崇教 准教授 上村 加奈

1 はじめに

幼稚園教諭一種免許状の取得を希望する受講生（初等教育学科幼児教育コース3年次生49名）を対象とした「教育実習Ⅱ（以下、本科目）」（3年次前期開講）は、指定の幼稚園で実習を行い、幼稚園教諭に必要な実践力の涵養を目的とする。広島文教女子大学人間科学部初等教育学科「教育実習記録」は、教育実習の意義を次の5点に集約する。

①教育の理論と実践の一体化、②基本的教育技術の習得、③発達期にある幼児の理解、④教育的人間関係における相互作用についての学修、⑤教育者としての自覚高揚

2 実施計画

(1) 事前・事後学修

- 第1回 平成29年12月1日（金）14:50-16:20
実習に関する基本理解、実習園の確認、課題の確認 他
- 第2回 平成30年1月15日（水）14:05-15:35
実習に関する基礎理解、実習に関する情報交換、課題提出 他
- 第3回 平成30年4月12日（木）15:50-16:20
課題の確認、実習および事前訪問に向けた確認作業（実習費等事務手続きを含む）
- 第4回 平成30年4月26日（木）16:30-18:00（各園にて実施）
実習園事前訪問の実施、園課題の確認 他
- 第5回 平成30年5月17日（木）15:50-16:20
実習に関する最終確認、事後課題の確認 他
- 第6回 平成30年7月6日（木）15:50-16:20
課題提出、事後報告会にむけた課題への取り組み（グループワーク）他
- 第7回 平成30年7月13日（木）15:50-16:20
報告会に向けた最終打ち合わせ（グループワーク） 他
- 第8回 平成30年7月27日（木）15:50-16:30
報告会および省察
- 随 時 平成30年7月の期間
園評価開示および事後個別指導

(2) 実習 *体調不良による欠勤のための補充延長等あり（個別に設定）

- I 期 平成30年5月21日（月） - 6月1日（金） 10日間
- II 期 平成30年6月4日（月） - 6月15日（金） 10日間

3 実施概要

平成29-30年度にわたり行われた5回の事前学修では、教育実習Ⅶ（観察実習）や教育実習Ⅰ（学内実習）に基づき、教育実習の意義・目的の理解や教育実習において求められる課題、必要事項（事務手続き等を含む）に取り組んだ。とりわけ実習生としての基本的な姿勢として、学ぶ立場にある謙虚な姿勢を示すことに加え、信用失墜行為の禁止および守秘義務の遵守を確認した。また、実習園事前訪問から実習開始にかけて実施すべき必要最低限の事項についてチェックリストを用いて点検した。実習園事前訪問は平成30年4月27日（木）に実施した。

実習期間中では、初等教育学科幼児教育コース教員による訪問指導が数回行われ、実習生の状況等についての報告がなされた。昨年度と比較した際、体調不良による欠席者や遅刻者の報告があった（昨年度報告なし）。この時期、天候不良による寒暖差や本科目が初めての本実習であるがゆえ、思わぬ疲労の蓄積が原因と推察される。また、実習生の消極的姿勢に関する報告もあった。具体的には「動きや表情の硬さ」、「園児や園職員との関わりの少なさ（遠慮がちな姿勢）」といった指摘である。「園職員（教諭）としての振る舞い」や「園児や園職員との関わり」の難しさは2年次の観察参加実習や本科目事前指導にて確認していた。また、事前の保育補助ボランティア等を推奨していたにもかかわらず、こうした指摘を受けることは、指導上、改善の余地があることを示すものとして受け止めなければならない。

事後学修（実習の振り返り）では、各グループで報告会に向けた作業を行うと同時に、報告会運営担当を中心に報告会が予定通りに運営された。準備作業では、各グループの討議活動が活発化されるよう、基本的検討課題の提示や話しやすい環境風土の構成に工夫を講じた。また学生による自主的な報告会運営を図った。準備段階から当日にかけて、運営役員を中心に責任感をもって積極的に活動する姿がみられた。以上のように、比較的熱心に最後まで取り組む学生の姿勢が確認された。

報告会では、初等教育学科の幼児教育コース4年次生、2年次生、児童教育コース3年次生に加え、広島文教女子大学附属高等学校1年次生も参加にして頂いた。報告内容は、子ども理解に基づく適切な声かけや援助について共通テーマとしていた。具体的なエピソードをそれぞれの視点で整理し、個々の園児の発達や園児同士の関わり、園児と園職員との関わりに関する考察（グループ討議の結果）が示された。

4 成果と課題

昨年度の報告にも記載の通り、本科目では教育実習Ⅶ及び教育実習Ⅰおよび保育実習との連動性を意識し、必要な指導や情報提供を行うと同時に、その都度これまでの学修（関連資料）の確認を促した。例えば、園とのコンタクトや園内での立ち居振る舞いについて、設定保育（指導）案の立案上の骨子については、関連科目と連動させつつ指導を講じている。情報の混乱による学修阻害を避け、効率的な学修が実習日誌や設定保育案、学生提出物から確認される。

最後に課題として、本科目の履修後に行われる保育実習や教育実習Ⅲとの連動性をあげておく。本科目で培った諸能力を後継の実習科目にてさらに高めていくことができるかについて、改めて検討する必要がある。すなわち、保育実践に関する課題意識の継続といえよう。ややもすれば、実習が終わるごとに途切れてしまいやすい学生の課題意識を今後の学びに発展させていく工夫を検討する必要がある。